



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

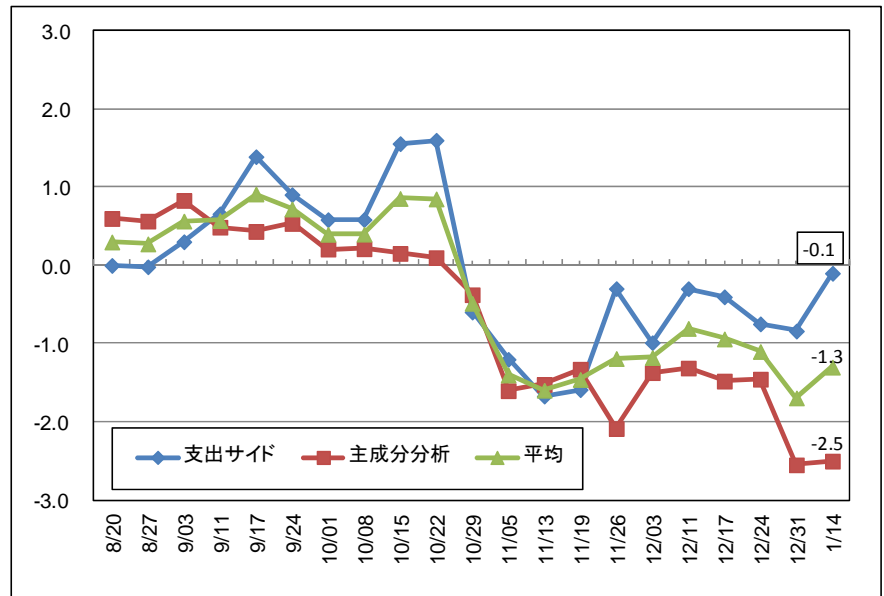
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年1月14日)

ポイント

- ▶先週(1/7-1/11)は、12月の財政資金対民間収支、乗用車新車販売台数、景気ウォッチャー調査、11月の消費総合指数、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。
- ▶民間消費は好調。11月の消費総合指数は前月比2ヵ月連続のプラス。結果、10-11月平均は7-9月期平均比+1.0%高い水準となった。10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された。
- ▶12月の景気ウォッチャー現状判断DIは大幅上昇。安倍新政権の政策期待や、円安株高の進行が企業や消費者の心理を大きく改善させた。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は小幅拡大するが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.1%と予測する。先週の予測から上方修正。
- ▶民間消費の好調により、10-12月期に景気は底打ちする可能性が高くなってきた。安倍政権にとっては追い風である。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



<好調な民間消費により、10-12月期に景気底打ちの可能性高まる。安倍政権にとっては追い風となる。>

先週(1/7-1/11)は、12月の財政資金対民間収支、乗用車新車販売台数、景気ウォッチャー調査、11月の消費総合指数、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。先週更新された月次データは、民間最終消費支出、公的企業在庫品増減及び純輸出の予測に影響を与える。

今後予測変化のポイントとして、11日発表の11月消費総合指数が重要であると12月の月次予測レポートで指摘した。結果、同指数は前月比+0.5%上昇し、2ヵ月連続のプラスとなった。実績は事前予測を上回り、また過去データが上方修正されたため、10-11月平均値は7-9月期平均比+1.0%高い水準となっている。このため、10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された(前期比+0.7%→同+1.0%)。

一方、12月の食料安定供給と11月の国際収支状況が更新された結果、10-12月期の実質公的企業在庫品増減の予測値は先週から上方修正、実質財貨・サービスの予測値は下方修正された。

12月の景気ウォッチャー現状判断DIは前月比5.8ポイント大幅上昇した。2ヵ月連続の改善。安倍新政権の政策期待や、円安株高の進行が企業や消費者の心理を大きく改善させたようである。

今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は小幅拡大するが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.1%と予測する。先週の予測(-0.8%)から上方修正。また1-3月期は、純輸出の減少幅が縮小し内需の増加幅が拡大するため、同+2.5%と予測する。好調な民間最終消費支出により、10-12月期に景気は底打ちする可能性が高くなってきた。安倍政権にとっては追い風である。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550